



お寺は総合福祉の場。
その役割を社会に
生かしていきたい

ささき・しんきょう 1953年生まれ、北海道出身。身延山高校卒業後、立正大学へ進学。卒業後は余市町に戻り、誠諦寺の副住職に。1980年、アパートホーム「延寿園」をオープン。福祉活動をスタートする。1987年、第3代住職に。1995年には札幌にも布教所と福祉施設を開設する。2007年に延寿園を建て替え、高齢者向けの複合的介護施設「ロータスビル」を開館。

Heart Beauty Salon

サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗誠諦寺住職
佐々木信教さん

第48回

私はお坊さんである傍ら、グループホームや高齢者マンション、デイサービスなどを行う介護施設を運営しています。そのきっかけとなったのは30年以上前。大学を卒業して地元である余市町に戻り、檀家回りをしていると、独り暮らしの中・高年の方がとても多いことに気づいたのです。話を聞くと皆、現状や将来に不安を抱えていて、相談を受けることもしばしば。そのような人たちのために何かできることはないか……考えた結果、高齢者が安心して暮らせる単身者のアパートホーム「延寿園」を

設立しました。

私はもともと、「お寺はいろいろな人に開放するべき」という考えを持っていました。「お寺は総合福祉」が持論です。アパートホームという福祉活動を通して、お寺が公共のものとして生かされていくことが大切だと思ったのです。

利用者に経済的負担の少ない 介護福祉サービスを実現

1995年には札幌市に福祉賃貸マンション「ウエルケアロータス」を設立。マンションの最上階には布教所も開設しました。当時はまだ介護保険制度がなく、有料老人ホームがブームだった時代。夫婦で入所すると20万円近くもかかるのが一般的でした。常々「高すぎる」と感じていた私は、入居費用を単身者で5万2000円、夫婦で8万8000円と設定しました。これにヘルパーや食事サービスなどを希望に合わせて利用できるようにしたのです。

この2つの施設への反響は大きく、高齢者からの需要の高さを実感した私は2001年にNPO法人「ロータス会」を立ち上げ、本格的に介護サービスをスタートしました。介護保険制度が始まった翌年のことです。

地方に暮らす高齢者の6割ほどは国民年金の受給者です。その支給額は月額6万円ほど。低料金で利用できる特別養護老人ホームへの入居を希望しても、待機者が多



誠諦寺境内に建つ「ロータスビル」(写真右側)。グループホームやデイサービスなどの介護福祉サービスを展開中。

く、入居できないままじくなってしまう人もいます。それでは意味がない。私は2007年、余市の寺の境内に多機能的介護施設「ロータスビル」を作りました。まだ元氣な方は3階の高齢者マンションに、認知症などで介護が必要な方は1〜2階のグループホームに。ほかにもデイサービスや訪問介護ステーションなどを備え、利用者が安心して生活できるようサポートしています。

子育てから介護まで安心して 生活できる町づくりを目指して

これからの社会は高齢化とともに少子化も大きな問題となります。だから私は子育て中のヘルパーさんが安心して働けるよう、託児施設の併設も検討しています。施設の利用者には暮らしやすい環境とケアサービスを、そのご家族には少しでも負担が減らせるようなサポートを、そして従業員には働きやすい環境を。子育ても介護も安心してできる会社づくり、町づくりが私のこれからの目標です。